

消化管検査

●胃(バリウム)検査

一般的にバリウム検査と呼ばれます。

硫酸バリウム(造影剤)と発泡剤という薬を飲んで頂き、胃の形や胃の粘膜面を検査します。検査中は検査台を起こしたり寝かせたりしながら、体位変換をして頂きます。その際に X 線で透視を見ながら胃を観察して撮影を行います。

主に胃がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃ポリープなど様々な病気を発見するための検査です。

*注意事項

- 胃の中を空にして検査を行うので前日の夕食は 20 時までに済ませて下さい。尚、お酒は飲まないで下さい。
- 検査当日の朝は食事・飲水・喫煙はしないで下さい。
- 検査当日の朝の常用薬は主治医にご確認下さい。
- 検査後、食事は普段通り摂って頂いて結構です。
- 検査後はバリウムの排泄のため、水分を多く摂って下さい。また、下剤も服用して頂きます。



●小腸検査

胃(バリウム)検査と同様にバリウム(もしくはガストログラフィン)という造影剤を飲んで頂き、透視を見ながら X 線撮影をして異常を発見する検査法です。

バリウムは胃の検査で使うものより濃度の低いものを使用します。

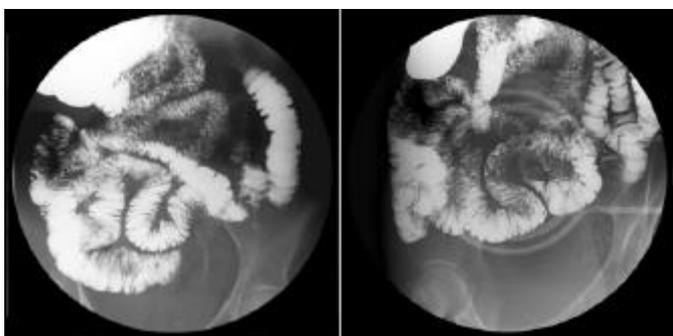
検査時間は小腸の動きに影響を受けるので 60 分～180 分を目安にして下さい。(バリウムの流れによっては寝たまま暫くお待ち頂く場合もありますので、本や音楽などを持ち込んで頂く事も可能です。)

主に小腸自体の奇形、外傷、潰瘍、イレウス、炎症性疾患およびそれによる癒着などの診断のほか、拡張症、低緊張症などの機能的疾患、異物、寄生虫、位置異常による他臓器の間

接的診断する為の検査です。

*** 注意事項**

- 小腸の中を空にして検査を行うので前日の夕食は 20 時までに済ませて下さい。尚、お酒は飲まないで下さい。
- 検査当日の朝は食事・飲水・喫煙はしないで下さい。
- 検査当日の朝の常用薬は主治医にご確認下さい。
- 検査後、食事は普段通り摂って頂いて結構です。
- 検査後はバリウムの排泄のため、水分を多く摂って下さい。また、下剤も服用して頂きます。



●大腸(注腸)検査

注腸検査は大腸(直腸・結腸)に直接バリウムと空気を注入して、体位変換をしながら大腸の壁にバリウムを付着させ、X線の撮影を行い異常を発見する検査です。

始めに看護師により直腸診を行い、問題がなければ専用のチューブを肛門より挿入し、そこからバリウム(約 300ml)と空気を注入します。検査中はお腹が張った感じやゴロゴロした感じがあります。痛みや気分が悪いなどの症状があればすぐにスタッフに申し出て下さい。

検査時間は 15 分~20 分を目安にして下さい。

主に大腸がん、大腸ポリープ、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸憩室などがこの検査で診断できます。

*** 注意事項**

- 注腸検査では腸内に残渣(便)があると正確な診断が出来ない場合があります。このため、外来などで予約をした際に検査についてのパンフレットと共に説明がございます。そちらを良く読んでわからない事をご確認ください。
- 検査前日は出来るだけ検査食をお召し上がり下さい。
- 検査用使い捨てパンツ(肛門側に穴の開いたもの)も購入可能です。なくても検査は

出来ます。

- 検査準備のため、いくつかの薬を処方いたします。(大腸内を空にするため)
- 現在、内服中の薬は主治医にご相談下さい。
- 検査が始まるまでに出来るだけ排便して検査を受けて下さい。
- 検査後は念のため下剤をお渡ししております。お食事は通常通り召し上がって頂けます。
- 腸の動きを止める注射のため、検査直後は車の運転が出来なくなる事がありますのでご注意ください。

